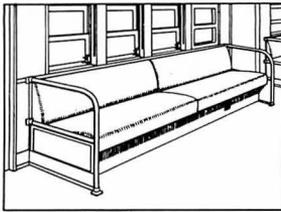
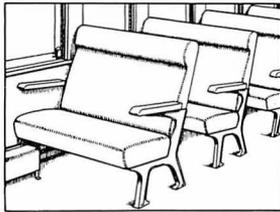


長手腰掛(主として近郊電車)



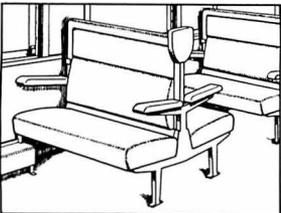
固定腰掛(3等)



4 転換腰掛

背ずりを前後いずれの方向にも転換できる腰掛で、常に列車の進行方向に向けて腰掛ことができ、また4人づれのような場合は背ずりを転換して向い合うことができる。

固定腰掛(特急用3等)



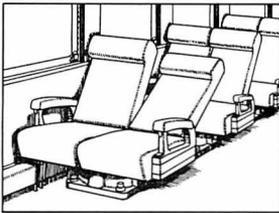
転換腰掛(3等)



5 自在腰掛(リクライニングシート)

特別2等車に取付けられてある腰掛で、客室の腰板にふれないで、腰掛を180°回転することができ、またひじ掛の下にあるボタンを押して背ずり(もたれ)に体重をかけることにより、各人の背ずりの傾斜を3段(最大約38°)に変え得られ、また掛け工合をよりよくするため座布トンが背ずりの傾斜の度合いによってずり上げる構造になっているので、旅客は楽な姿勢で仮眠することができる。また腰掛の後下部に足掛が設けてあるので、これを使用することによりいっそう快適な旅行ができる。なお回転することができるため、4人づれの場合などこれを回転して向い合うこともできる。この腰掛の座ぶとんには成形した柔らかいラテックス・スポンジを使用して非常に掛け心地をよくしてある。(林 正造)

自在腰掛(特別2等)



**ごじょう 誤乗** 旅客が旅行不案内・仮眠その他これに類する事由によって、乗車券面表示の区間外にわたって乗車船することをいう。

旅客運賃を免れる意思をもって区間外乗車船をした場合は無札であり、誤乗ではない。誤乗か否かの判定は係員の実事認定による。誤乗旅客に対しては無賃をもって着駅または原券区間への復帰乗車の取扱をするが、定期乗車券・回数乗車券使用旅客のように、一定区間を常時乗車船する旅客や継続乗車船中の旅客に対してはこの取扱をしない。

誤乗旅客に対する無賃送還の方法はつきによる。

1 最近に出発する列車・汽船または自動車で送還することを原則とするが、送還する列車・汽船または自動車が当日中がない場合は翌日の初列車等で送還の取扱をする。この場合、乗車券の通用期間が当日中のものであるときは、通用期間延長の場合に準じて預かる。最近に出発する列車・自動車が急行列車または急行自動車であるときは、旅客がべつに急行券を購求す

る場合を除き、次の普通列車によって送還の取扱をする。

2 送還は原券と同一線経由の列車等によることを原則とするが、目的地に早達する他線経由の列車等があるときは、その他線経由の列車等によることができる。

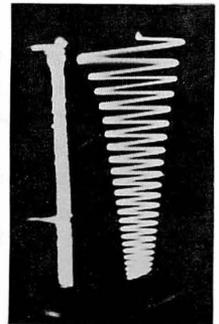
3 送還中の乗車船等級は、原券の等級と同一かまたはそれ以下の等級による。

4 送還中は途中下車の取扱をしない。もし旅客が送還中に途中駅に下車したときは無賃送還の取扱を取消し、誤って乗車船した区間およびすでに送還した区間に対して、それぞれ普通旅客運賃を収受する。

5 無賃送還の取扱をする場合は、原乗車券の裏面に「誤乗」と記載して駅名小印を押すことによって旅客が所持し、送還区間の乗車船をする。この場合他線区経由の列車等によって送還の取扱をするときは「誤乗何何線に変更」の例により送還経路をとくに指定して駅名小印を押すことによって取扱う。(平林喜三造)

**こしょうてんひょうていき 故障点標定器** (英) fault locator 送電線の事故の大半は雷害によるものである。したがって雷によって送電線のどこが被害をうけたかを簡単に知る方法として、登場したのが故障点標定器である。その原理はつぎのようなものである。

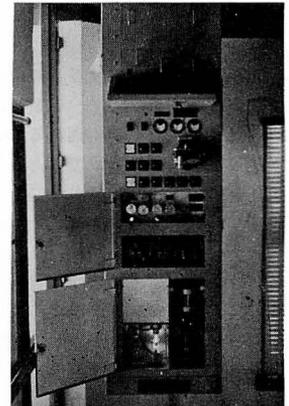
送電線の一端から直流の高圧インパルス(衝撃)を入れると、それが送電線の末端まで行って反射してくる。もし送電線の途中で故障があると、そこからインパルスが反射してくる。ブラウン管で発射インパルスと反射インパルスの両方を見られるようにしておけば、反射インパルスの方は行って帰る時間だけずれてみえる(写真-1)。したがって反射インパルスのあらわれる位置は、故障点の位置によって変わるわけである。すなわち発射インパルスに近い所に反射インパルスがあれば、送電線の事故地点が送電端から近いわけであり、反射インパルスが遠い所であれば、事故地点が送電端から遠いわけである。



1. 故障点標定器

また雷害そのほかで送電線に故障の起きた場合は、送電線の両側の遮(しゃ)断器が動作して、事故区間を切り離してしまう。しかし雷のため送電線の碍子(がいし)が2つ3つ破損した程度の事故であれば、強行送電すればふたたび送電可能である。電気は瞬時も停止しないことが望ましいので、遮断器が動作した場合でも強行送電可能であれば、送電をつづけることが多い。

しかし保安上の立場からすれば事故点を早く探しておかないと、碍子の2つ3つの破損がやがては大きな事故の誘因となる。停電してでも早く探したいわけである。したがって送電線故障点標定器は遮断器が動作して、再投入するまでには事故点が見つかるようにしたい。そのために事故と同時に直流高圧インパルスを送電線に発射して、ブラウン管上で反射波をとらえて事故点をキャッチし(写真機で映像をキャッチ



2. 故障点標定器セット